

## 節分会祭文

謹しみ敬つて真言教主大日如来两部界会、殊ことに別わいては本尊聖者薬師瑠璃光如来、觀世音菩薩、諸尊諸菩薩、十二神将、総じては薬師堂境内勸請諸仏諸神等内外権実一切の聖衆しょうじゆに白もうして言さく。

伏して惟れば当山の本尊薬師如来は国の重要文化財で、修復なつた薬師堂に安置されてあらたかな靈像なり。奈良時代天平十一年聖武天皇の発願から良弁僧正の開創による。同僧正は生まれは近江の国。二歳の時、母と桑畑ろうべんにおいて鷲ぎえんにさらわれ、奈良の二月堂下の杉におかれ、義淵ぎえんに育てられたとの伝説がある。その義淵に法相を、新羅僧審祥しんじやうに華嚴を学び、華嚴教学の弘通ぐづうと東大寺建立に尽力し、日本華嚴宗の第二祖、東大寺初代の別当となる。

さらに時は平安時代に移るや、真言宗宗祖弘法大師によつて、安養寺の堂宇は再建され、大師をもつて中興の祖と仰ぎ、大師信仰の確たる靈場古刹となる。さらに開運除厄の本誓ほんせい、余尊よそんを越え、庶民守護しよみんの悲願たせい、他誓まきに勝る靈能たを足れて高く巨益こやくいよいよ弥々深し。ここをもつて本日、薬師本尊の靈浴れいよくに預かるもの、崇敬の檀信徒らの面々、節分の吉辰ぼくをトとし、妙供を宝前に献じて護摩の密法を修して、法樂くうを天尊てんそんに供ず。

平成の最後の節分会となる。丙平らかに外成る、地平らかに天

成る」の平成の時代なれど大きな自然災害が相次いで、昨年是一年を総称して漢字の一字は災害の「災」と決まる。辛い災害のなかに皇后陛下が焼け跡に献花された水仙が、復興のシンボルとして、今、なお、地域の人々の記憶に刻まれ、水仙が置かれた場所は今、公園に生まれかわり子供の笑顔があがっている。

当安養寺にとっても昨年四月には熊谷俊亮住職が全く思い掛けないくも末期がんの発症が起こり、一大事を期す。癌治療を始められて暮れに二回目のCT検査の結果、転移した癌細胞が小さくなり良好に向かっているとの診断を得て住職、関係者に安堵をもたらず。

この間、年中の諸行事は少しも休むことなく粛々と続けられ、本日も平成の元号最後の節分会をかくの如く丁寧に執り行われる。更に俊亮住職におかれては、仏の使者として真言行者のつとめを果たすべく、四十年間欠かさず継続されている四国八十八ヶ所霊場巡拝を今年も続けると。大挙して共にその修行、お慈悲、ご利益、功德を戴くべくいま呼びかけられている。

うららかな春を呼ぶ節分、立春である。

新時代へ希望をもって躍進する時、本来清らかで清浄心であるこの身を邪心悪心が宿るならその鬼を取り払らおう。災難が来たれば、福に転じよう。転禍為福のみ業を身につけよう。挫折は挑戦の始まりである。

仰ぎ願わくは、本尊聖者薬師如来並びに観音菩薩、衆庶が微衷を哀愍して此の法味を嘗め、威光を倍增して速やかに転禍為福の慈悲を施し玉へ。

ひちゅう

な

いこう

ばいぞう

すみ

しゅうしよ

重ねて乞ふ。

山内安全 密教紹隆 家業繁栄

除災招福 福寿如意 乃至法界

平等利益

平成三十一年二月三日

敬つて白す

京都府向日市寺戸町西垣内十五―六十四

亀光庵

沙門 土口哲光